

## オガサワラカワラヒワの足環による傷病個体の発生について

## 小笠原諸島森林生態系保全センター

東京都によるオガサワラカワラヒワの域外保全における飼育の結果、足環装着によって足環の内側に垢が溜まり、炎症等を引き起こす場合があると報告された（令和7年8月）。

小笠原諸島森林生態系保全センターでは、「小笠原諸島希少鳥類保護管理対策調査」としてオガサワラカワラヒワの標識調査を実施しており、個体識別のため足環の装着を行っている（受注者：一般社団法人 Islands care）。

このたび、Islands care の自主調査及び東京都による域外保全事業のファウンダー捕獲作業において、足環による傷病症状と思われる個体が確認されたため、その状況及び今後の対応含めて報告する。

## 1. 当該個体の状況

## (1) 妹島 観察日 9月30日 メス（成鳥） ※未捕獲

枝や地面でも頻繁に右足を上げている様子が確認された。右足には金属リング1個（環境省リング）とプラスチックリング1個（橙）、左足にはプラスチックリング2個（紫、青）が装着されていた。金属足環が右足を締め付け、足が腫れている様子が見受けられた。（写真1）



写真1. 左：足環による締め付けと腫れの様子、右：腫れた足を上げている様子

(2) 平島 観察日 10月14日 メス、(成鳥) ※捕獲

左足の跗蹠から先が欠損した個体を確認した。欠損部は治癒しており出血等は見られなかった。(写真2)

右足にはプラスチックリング2個(黄緑・紫)が装着されていた。内部には垢が溜まっており、リング外の足先側はやや腫れていた。(写真2)

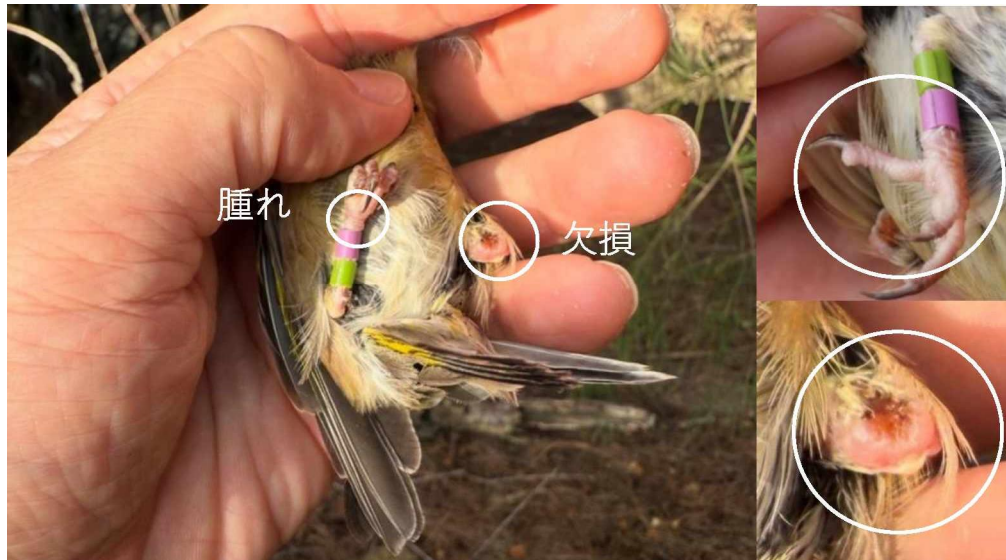


写真2. 当該個体の足の状況。右足はリングの遠位部に腫れ。左足は踵先が欠損。

2. 再捕獲した個体について

今回、ファウンダー捕獲等により再捕獲した足環がついた6個体について、緊急的措置として、以下の対応を行った。

写真2の個体は足環を外し放鳥、それ以外の個体についてはPIT タグを含む3つの足環を外し、4mm幅から2mm幅の足環1つに変更し放鳥を行った。

3. 再捕獲した他個体の足環の状況 (写真2以外の個体)

リングを指で回すと回転したため、リング脱着用への利用して取り外した。リングを外すとリング内から垢が確認されたが、リング下の皮膚には外傷や出血、腫れ等は見られなかった。

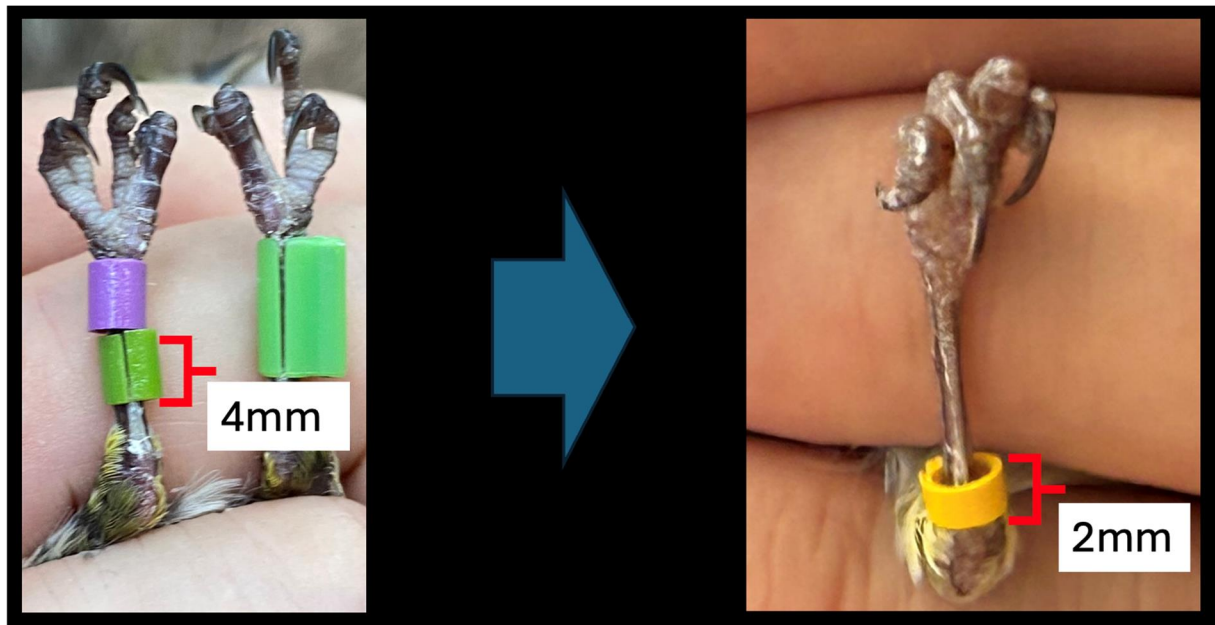
4. 今後の足環装着方法について (案)

PIT タグや複数のプラスチックリングを足に装着することで、足環の動く範囲が制限され、これにより垢が溜まりやすくなると考えられる。そのため、足環の装着が影響を及ぼすおそれが考えられる。

しかしながら、標識調査(モニタリング)のためには足環装着は不可欠であり、モニタリングと個体の保全を両立させる観点から、以下の方法をとることとする。

○ 新規に足環を装着する場合

- ・ 足環の下に垢が溜まりにくくするため、足環の幅を 4 mm から 2 mm 程度に変更する。
- ・ 足環の影響を軽減するため、装着する足環の数を 1 つにする。
- ・ PIT タグを装着する場合は、リング部分を削り、足が覆われる範囲を減らして垢が溜まりにくい構造とする。



○ 足環装着個体を再捕獲した場合

- ・ 足環を外し 2 mm 幅程度の足環を 1 つ装着する。
- ・ 足に何らかの症状が見られる場合は、足環を外して放鳥する。
- ・ 足に炎症等が生じて治療が必要な場合には、一時的に保護を行う。